

第7回 研究成果報告会

患者・市民とともにあゆむ J-SUPPORT

～支持・緩和・心のケア開発を目指して～

2025年 **11月19日(水)** 18:20開場
18:30～20:00

私たちはがん患者さんの QOL 向上を目指し、支持療法(副作用を制御する治療)、緩和治療(がんによる症状の緩和)、心理社会的ケア・サバイバーシップケア(がんや治療によって生じる気持ちのつらさや生活上の問題への働きかけ)の研究を進めてきました。

第7回となる今回は、今年結果が発表された「頭頸部悪性腫瘍切除・遊離組織移植術の手術前ステロイド投与の有用性を検証する多施設共同プラセボ対照二重盲検無作為化第Ⅲ相比較試験(J-SUPPORT 2002 / PreSte-HN試験)」を題材とします。手術に伴い患者さんがうける負担(侵襲)を和らげ、術後の早期回復を目指すために計画された試験の内容と結果、頭頸部再建手術のための術後早期回復プログラム「ERAS®(イーラス)」について共有するとともに、患者・市民参画(PPI: Patient and Public Involvement)による支持・緩和・心のケア開発について、患者・家族・市民・医療者などの視点からディスカッションを行います。

お申込み方法

こちらのリンクからお申込みください。 <https://100ninkaigi.jp/event/J-SUPPORT2025/>
お申込み締切: 2025年11月19日(水) (研究成果報告会終了時間までお申込みいただけます)



お問い合わせ先

J-SUPPORT 研究成果報告会 事務局 j-support_results@ncc.go.jp

ジェイ サポート

J-SUPPORTとは

がん支持療法、緩和ケア、心のケアに関する多施設共同研究をオールジャパン体制で支援する臨床研究グループです。詳細は下記 URL もしくは QRコードよりご覧ください。

<https://www.j-support.org/>



【主催】 J-SUPPORT 日本がん支持療法研究グループ

【共催】 一般社団法人 全国がん患者団体連合会

【運営支援】 キャンサー・ソリューションズ株式会社

本報告会は、全国がん患者団体連合会(全がん連)が運営をお手伝いしています。

全がん連には51団体が加盟していて、政策提言や「がん患者学会」の開催、がん教育委員会、緩和ケア委員会、サバイバーシップ委員会、政策提言委員会、ピアサポート委員会、PPI 委員会がありそれぞれの委員会活動などを行っています。

プログラム

18:30～18:35

総司会：香留 美菜（徳島県がん患者団体協議会）

18:35

開会挨拶

18:40

間野 博行（国立がん研究センター 理事長／研究所長）

18:40

J-SUPPORT 紹介

18:45

松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科／支持・緩和医療開発部門／J-SUPPORT 代表）

18:45

体験談：心に寄り添うチーム医療

18:55

清水 敏明（Japan for LIVESTRONG）

研究成果報告

頭頸部がん患者さんの手術後の回復の質を高めるために

（J-SUPPORT 2002/PreSte-HN 試験）

【研究概要】

18:55

19:15

頭頸部がんの治療では、腫瘍を切除したうえで組織移植を伴う手術がしばしば行われます。患者さんにとって心身共に負担の大きな手術です。我々はそのような手術を受ける頭頸部がん患者さんの術後の回復の質を高めるため、多職種連携を重視したプログラム（ERASといます）による術前から術後の管理を行っています。その効果をさらに高めること、プログラムの普及、その両者を目指し、我々が行っている取り組みについてご紹介いたします。

進 行：香留 美菜（徳島県がん患者団体協議会）

発 表 者：今井 隆之（宮城県立がんセンター 頭頸部外科）

パネルディスカッション

患者・市民とともにあゆむ支持・緩和・心のケア開発 「良い手術」とは？ ～医療者と患者の視点から考える～

19:15

19:55

進 行：横田 知哉（静岡県立静岡がんセンター消化器内科（頭頸部）／J-SUPPORT）

登 壇 者：清水 敏明（Japan for LIVESTRONG）

福智 木蘭（頭頸部がん患者と家族の会 Nicotto）

松浦 一登（国立がん研究センター東病院 副院長（教育担当）／頭頸部外科）

原田 剛志（国立がん研究センター東病院 リハビリテーション科）

19:55

20:00

閉会挨拶

瀬戸 泰之（国立がん研究センター中央病院 病院長／J-SUPPORT 顧問）